

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 旭化成株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 日比谷三井タワー	
本票作成	部署名：製造統括本部 水島製造所 環境安全部 環境グループ				
主たる業種	分類コード	16	業種名：化学工業		
事業の概要	石油化学系基礎製品製造業・プラスチック製造業				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	旭化成株式会社【B地区】		岡山県倉敷市潮通三丁目13番地	
	②	(以下を含む)			
	③	P S ジャパン株式会社 水島工場		岡山県倉敷市潮通三丁目13番地	
	④	旭化成株式会社【C地区】		岡山県倉敷市児島塩生字新浜2767-11	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 2 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成30年度)	(令和3)年度排出量	目標年度(令和3年度)
	671,129 t CO <sub>2</sub>	707,107 t CO <sub>2</sub>	665,000 t CO <sub>2</sub>
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和3)年度排出量
	①	旭化成株式会社【B地区】	707,107 t CO <sub>2</sub>
	②	(以下を含む)	t CO <sub>2</sub>
	③	P S ジャパン株式会社 水島工場	t CO <sub>2</sub>
	④	旭化成株式会社【C地区】	t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間：	令和元年度 ～ 令和3年度 (3箇年度)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 総排出量基準	(3)年度削減実績	目標削減率 目標達成
	<input type="checkbox"/> 原単位基準	△ 5.4 %	1.0 % <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容	原単位当たり排出量		
		基準年度	(3)年度	目標年度
		CO <sub>2</sub> /( )	CO <sub>2</sub> /( )	CO <sub>2</sub> /( )

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和3年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

各工場共に省エネを推進し活動を継続している。  
 一方、各工場の生産量が回復したこと、本報告(その他特記事項記載)の外数扱いの燃料の使用減(定期修理の影響)に伴い、エネルギー起源の燃料の使用量が増加したことが、目標未達の主な要因となっている。

**【推進体制】**

**【環境安全推進体制】**

旭化成グループ環境安全・品質保証委員会およびグループ環境安全・品質保証推進会議  
 <委員会・推進会議の役割>

- ・旭化成グループ環境安全・品質保証委員会：グループの環境安全・品質保証活動結果について審議する。
- ・グループ環境安全・品質保証推進会議：事業会社等、事業本部等ならびに支社及び製造所の環境安全・品質保証上の問題等について審議する。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
<b>【水島製造所】</b>	<p><b>【水島 2021年度実施分】</b></p> <p>(1) 各工場による省エネ推進                      (2) 2030年度に向けた削減テーマの抽出継続                      *新規事業の立地も考慮して検討(※)</p> <p style="text-align: center;">※2030年全社目標 2013年度比30%の排出削減                      に寄与するよう検討を継続中</p> <p><b>【今後実施予定】</b></p> <p>(1) 新工場建設中                      原料は植物由来であり、環境負荷への影響は少ない                      廃棄物もバイオマス燃料の価値有(利用検討中)</p> <p>(2) 2030年全社目標 2013年度比30%の排出削減                      に寄与するよう検討を継続</p> <p>《その他地区の今後のトピックス》…参考</p> <p>(1) 延岡：ガスタービンコージェネレーション設備導入                      (16万t-CO2/年削減)</p> <p>(2) 2030年全社目標 2013年度比30%の排出削減                      に寄与するよう他地区も検討を継続</p>

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県における「あさひの森」での植林活動</li> <li>・静岡県における「あさひ・いのちの森」での自然再生活動</li> </ul>

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県延岡支社では、水力発電及びバイオマス発電の継続</li> <li>・再エネ電力の購入及び非FIT・FIT非化石証書の購入</li> </ul>

**【その他特記事項】**

**【水島エコ活動重点実施項目】**

- 1) 事務所の照明 昼休みの不要時消灯、利用時の照明削減(エリア別消灯)
- 2) お手洗いの照明 不要時の消灯
- 3) エアコン、複合機、パソコン等の節電対策の実施

**【排出量の算出について】**

- 1) エネルギー起源：省エネ報告値(クレジット補正前)を使用 567,183 t
- 2) その他：生産活動に伴う排出量を算出して使用 139,924 t
- 3) 排出量の概念：実績報告の外数として、石油タールピッチ由来の二酸化炭素  
**【対象区分に該当せず】**の排出が、146,564 t